

令和5年度 第3回太宰府市観光推進基本計画策定協議会 会議録

1 開会及び閉会に関する事項

- 1 日 時 令和5年12月6日(水)
15時00分 開会
16時40分 閉会
- 2 場 所 プラム・カルコア太宰府 2階研修室

2 出席委員の氏名(17名)

会 長	竹川 克幸
副会長	大江 英夫
委 員	寺田 正典
委 員	高田 由美子
委 員	高山 博子
委 員	野田 智子
委 員	菊武 良一
委 員	草場 康文
委 員	松尾 俊裕
委 員	富田 慎志
委 員	菊本 亮
委 員	松澤 尚史
委 員	井手 麻由美
委 員	簾内 彩佳

3 欠席委員の氏名(6名)

委 員	実藤 裕久
委 員	河野 圭治
委 員	平田 隆幸
委 員	吉田 憲和
委 員	富永 誠治
委 員	古賀 正之

4 委員を除き会議に出席したものの職・氏名

太宰府市

観光経済部長	友添 浩一
観光推進課長	西山 英毅
観光推進係長	田上 真也
観光推進係	有田 ゆきな
観光推進係	伊藤 裕貴

株式会社サーベイリサーチセンター

九州事務所主管研究員	堤 彰子
企画課長	伊東 巧
企画課担当	下村 直輝

5 協議会次第

1. 第二次太宰府市観光推進基本計画 調査結果について
 - ・学生向けアンケート
 - ・若手職員向けワークショップ
2. 第二次太宰府市観光推進基本計画 素案について
3. その他

6 内容

○事務局

(開会挨拶)

○竹川会長

皆様、改めましてこんにちは。会長の日本経済大学の竹川です。

(本会議の次第について説明)

それでは、調査結果についてサーベイリサーチセンターより説明をお願いします。

○サーベイリサーチセンター

(資料説明)

○竹川会長

ありがとうございました。学生のアンケートで16や17歳の方がいらっしゃるの、市内の5大学に加えて4つの県立、私立高校が参加している太宰府キャンパスネットワーク会議において、先日楠田市長を囲んで、市長と学生の意見交換会がありまして、その場でも意見聴取を行いましたので、高校生の意見も含まれたものになっております。

あわせて、若手職員向けのワークショップ、研修会には、私と大江副会長それから事務局の方も参加しました。その際、夜の飲食を楽しんでからそのまま太宰府に泊まっていたことで次の日の朝まで太宰府で過ごしていただく、宝満山に毎月登るなど、非常にユニークな意見が市役所の方から出ておりましたので、それもあわせてご確認いただければと思います。

皆様から、何かお気づきの点やご意見ございましたら頂戴したいと思いますが、何かございますか。

○委員

イベントの重要性というお話をされてましたが、私も非常にそれに同感しています。私は仕事柄九州各県の各自治体の観光PR隊の表敬をよく受けるんですけども、皆さん口を揃えて言われるのが、いかに長く滞在してもらおうかというところに非常に苦心されていて、やはり面白い、滞在時間を長くしてもらおうイベントの企画が重要になると思うということをよく言われています。

例えばその中で、佐賀県有田町は毎年秋に陶磁器祭りという非常にたくさん集客されるイベントをされているんですけども、毎年色々な企画を新規で打ち出してまして、今年の秋は初めてヘリコプターを使って上空から遊覧飛行をするという企画をされてました。こちらのアンケートの中にもある着物のレンタルとかNHKのブラタモリとい

う番組があるんですが、あそこに1回取り上げられたことがありまして、そのプラタモリで周ったような場所を観光ガイドが案内してくれるという企画もされてまして、非常にいずれも好評だったと伺っています。

そういうことで、やはり滞在時間をいかに長くするかという観点からイベントをいかに打ち出していくかが非常に重要ななと思いました

○事務局

ありがとうございます。イベントにつきましては前回も発言させていただきましたように、単にイベントのためのイベントではなくて目的を持ってやっていかななくてはならないところを考えております。滞在時間を延ばすためには太宰府の魅力を活用して、いかに色んな切り口でやっていくかというのは重要です。また色々なテーマで効果的なイベントというのを次の5年間で検討してまいりたいと思っています。

○竹川会長

観光に伴うイベントというか、前述的な発想も必要になりますし、これは後の素案の中にも出てきますが、最近オーバーツーリズムも話題になっておりまして、イベントをただ打つだけではなくてどのように人を介入させるか、どのように滞在して楽しんでいただくかというのが全体の課題であります。太宰府市はイベントがある時の人の集中について考えていかななくてはならない観光都市でありますので、重要なご指摘かと思えます。

有田町の事例は私も知っておりますが、色んな学びであったり、飲食を伴ったり、研修であったり、そういった観光につながるようなイベントをどのように構築していくかというのが大事だと思います。

ご意見ありがとうございました。他に皆様からお気づきの点はございますでしょうか。

○委員

直接この資料に関係しているというわけではないのですが、すでにもう太宰府天満宮の周辺等でイベントが多くある一方で、毎年このイベントはこのような紹介というのが決まり切っている印象があります。例えば、鬼すべについては、地元マスコミが毎年決まった場所取りをして決まった絵面で撮って、お昼や夕方のニュースで紹介をするというパターン化されていて、発展性がないと感じます。私達は参道にいますので、鬼すべの松明が参道を物凄い勢いで駆け抜けていって、毎年火がつかないかどうかひやひやしているというような状況はあるんですが、誰も見てないわけですよ。もちろん単純にそこに人を入っても危ないので、それはどういう風な形で見せていくのがいいか、別で考えていく必要はあります。既にあるイベントで時間的な問題とか、年明けると梅あげとか、夏場は行列があつたりしますけれども、その場にいる観光客の方がこれ何？と驚い

ています。特に梅あげの時なんかは、梅あげで歩く還暦であったり 40 いくつの人に向けて各お店がお菓子を出したり、食べ物を出したりしているんですけども、観光客の人たちは何も知らないですから、これ食べていいんですか？と疑問に思われます。その辺が、地元の行事で誰のためにやるかみたいな事が長く続いているので、単純に外に見せることができないのかもしれませんが、少しもったいなさはあるなと思っています。

あと、1 個だけ思ったのは、アスレチック系の要望が多いことです。たしかに自然があるので、ジップライン等は危険性の問題はありますけれども、そういうものもあるのは私としては想像してなかったのが驚きました。

○竹川会長

ご意見ありがとうございました。学生向けアンケートの中にも誰もが参加しやすいイベントが出ていました。事務局と話して、どなたでもわかりやすい太宰府の年中行事などをまとめた観光イベント情報のたたき台を一回作りました。そういうものを示しながら、なるべく多くの方にお祭りやイベントを楽しんでいただくような工夫が、オーバーツーリズム対策にもなりますが、なかなか観光イベント情報が伝わりにくく、イベントが重なるという問題の方が課題としてありますので、貴重なご意見だったと思います。

○委員

この学生のアンケートの中で、オンラインスタンプラリーですね、非常に面白いなと思いました。オンライン化することでごみも出ないですし、色んな場所でスタンプを集めるということであれば色んな場所に足を運んで頂けるからいいのかなと思います。例えばスタンプ全部集めたら参道で使えるようなお買物券を発行するとかそういうのもいいでしょうし、その他に漫画とかとのコラボですね「呪術廻戦」、「鬼滅」と書いてありますが、竈門神社がありますので「鬼滅の刃」とコラボしたり、例えば参道でいくら以上、五千円以上買い物した人にはそこでしか手に入らないレアなスタンプをつけるとか、色んなやり方があるんじゃないかと思います。

またレンタサイクルとか、そういうのも出ればあちこち行きやすくなると思いますし、福岡市内ではチャリチャリというシェアサイクルが増えてきているので、そのような企業と連携すると面白いのかなと思いました。

以上です。

○竹川会長

ありがとうございます。回遊性の問題としてスタンプラリー、これはもともと御朱印を巡ったりとかにもつながりますし、先ほど私もご紹介しました七とこ、七か所を巡ったりとか、あと昔は太宰府天満宮や全国の天満宮 5 か所巡るようなすごろくがあったり、今の学生さんたちは非常にゲーム性だったり、意外とすごろくだとかボードゲーム、人

生ゲームみたいなものに希少価値を見出しています。

そういう中で今の市長が率先してポケモン GO や政庁跡の前とかにあるマンホールです、令和のマンホールもそうですし、あとマンホールカードを集めている方がこの間太宰府展示館に来られてました。そのような仕掛けがもう少し市内の主要な場所以外にも広がると良いと思います。

またスタンプに関しては意見で出ておりましたとおり、オンラインスタンプラリーのようなデジタルを活用したのも今後展開していけるのではないかと考えてます。

では、議題2の方に移らせていただきます。続きまして2の第二次太宰府市観光推進基本計画素案について、素案のまず第一章、二章についてであります。一応素案については説明を前段、後段と分けさせていただきましますけれども、最初に事務局から第一章、二章についての説明をしていただいて、ご質問ご意見をいただき、後半の残りの「第3～5章について」に入っていきたいと思います。

では、最初の前半部分ですね、「素案第1・2章の前回からの修正点について」事務局から説明をお願いします。

○事務局

(資料説明)

○竹川会長

では今事務局から、第1・2章及び追加修正になった部分の概要説明があったかと思えます。特に8ページの歴史に関する箇所は私も要望を出しましたが、太宰府の観光都市としての歩みは非常に古いものがあると思います。前計画の追加修正になった部分の、令和やコロナ禍を経て現在に至るまでの取りまとめをしていただいて次につなげていくということも追加していただいています。

お気づきの点やご意見がありましたらご発言をいただければと思います。

○委員

19ページの①の『「数」の観光から「質」の観光へ』があつて、②の「観光消費額が低いまま、滞在時間の拡大を図っても」というようなその記載についてなんですけど、うしろの方の表現とかとも合わせた方がいいのかなと思います。滞在時間を延ばしていくというのが全体の目標になっていると思うので、そこは滞在時間を延ばすことでいいのかなという風に思います。ここの表現よりもむしろ基本戦略で書いてあるもとの課題って、通過型の観光客が多くて、消費額に結び付いてないっていうところが太宰府の課題なんだろうと思います。滞在時間が延びれば当然もう一軒寄ろうとか件数が増えるので、それは消費額の増加につながっていくと思うので、延ばしていこうっていう方が分かりやすいのではないかと思います。

○事務局

ありがとうございます。ご指摘のところはまた本来の方針に沿って内容が分かりやすい表現にしたいと思います。

○委員

あと 21 ページ基本戦略 2、効果的なプロモーションのところですが、後ろのページで書いてある回遊性を向上させるようなプロモーションの内容とか、課題や方針が記載されているといいかなと思います。全体的に後ろ側の表現の方がいいので、前の方を整合性がつくとようにすると、より良くなるかなと思います。

○委員

20 ページに、地図みたいな、パンフレットが載ってると思うんですけども、これに太宰府の歴史と梅プロジェクトとか太宰府に関連するそういう企画について載せたら認知度が高まるんじゃないかと思います。また、おすすめの回り方とかもあればいいと思いました。

○事務局

20 ページのこちらの地図の所に、これパンフレットのことなんですが、そういうパンフレットがあるといいということですかね。確かに観光地の説明だけではなくて、取り組みとか歴史とかそういったものが載ったパンフレットとかそういったものがあるといいかなと思います。それを目的に、関心を持ってもらえる方というのは必ずいると思いますので、特に多言語とかでそういったものが色んなところで配布されると、更に周遊性が高まるんじゃないかというところは感じております。

○竹川会長

色々なものをガイドブックや観光ガイドだけではなくて読み物としても読めるように、写真と図とともに地域のストーリーを語る、これはサステイナブルの観光につながるご意見かと思いますが、学生さんたちがいきなり太宰府に住むようになって、知らないことが多いのを、そういうものを知るようになって、もし就職されて別の場所に行ってもそこでまた展開があるのかなというご意見だったかと思います。観光コンテンツに説明なり色々な要素を記載していくというアイデアですね、ありがとうございます。

○委員

6～7 ページに多分国の資料だと思うんですけど、オーバーツーリズムの未然防止とか書いた図があるんですけど、計画書の中に書くのであればどなたも読めるような大きさでないと計画書に載せる意味がどうなのかというのがありますので、もう少しこの辺

載せるのであれば工夫をしていただいた方がいいのかなと思いました。

○竹川会長

貴重なご意見ありがとうございました。今回これは参考資料で解像度が悪い分をコピーなりして入れてあるので、本番で印刷される前の資料の時には市民の方もパブリックコメントもらう前にはきちんと入れていただくのと、もうちょっと典拠というかニュースソースがわかりやすい表示があるといいのかなと、前段には書いてあるんですけど、どこからというのが市民の方もわかるような表示、工夫は今後事務局と検討していきたいと思っております。

○委員

8ページの観光の歴史ということで載せてある年表にさっきから目を奪われておまして、一つは太宰府の観光という場合に場所の広がりの問題、回遊性の問題とは別に、歴史の深さっていうのを二次元でこれがあってこれがあってっていうよりも、ちゃんと年代をつけて掘り下げていくと結構色々発見があるなという風に思うんですね。それでこれはひょっとしたら観光の歴史だけに絞らずに、実際観光以外のものも載っているんですけど、例えば今改築している天満宮の本殿が何年ごろにもともとはできたのかとか、楼門が室町時代にどうこうとか、あとこの太宰府博覧会っていうのを、不勉強で私は今ここで知ったんですけど、こういうのをちょっと調べたらパリ万博とかの影響を受けて日本で博覧会というものが色々開かれたみたいな記述をインターネットで見つけたんです。そういうことであれば、この時代に日本でどういうものが他に博覧会として開かれて、その中で太宰府でも開かれたみたいなそういう位置づけを、これ一つをキーにしても太宰府っていうものが当時明治時代にどれくらい大きなものであったのかというところを実感するきっかけになるんじゃないかなと思ったりします。

それから更に梅が枝餅の歴史とか、生活に関わるようなものの歴史も色々含めて、こういう地図に写真を色々、本当に古いものは無理でしょうけど、例えば僕の持っている本では梅あげの初期の写真とかも載っていたりするんですね、そういうのを入れて図版にしてその歴史として見せていくと、生活感も含めた太宰府の縦の広がりというのを実感していただくきっかけにはなりうるのかなと思いました。

○竹川会長

貴重なご意見ありがとうございました。ページ数も限られていますので内容を検討の上、可能な限り追加していきたいと考えています。例えば太宰府市は何年も前ですが、太宰府市史というのをを出されてまして、そういうエッセンスや、太宰府博覧会があって今博物館ができていますよという歩み、つながりがあるようなものにし、従来は古代と現在がいきなり令和発祥の都みたいなところになってしまうところを少しでも丁

寧に歩みをここで留めておくことが私は持続可能な観光地作りの一つであると思いましたが、無理を言って入れていただいています。今後精査して色んな方にまた見ていただいてコンテンツを増やしたいと思います。

たまたま先ほど市民図書館にも寄ったんですけども、ここの図書館は郷土資料見放題なんです。普通図書館の郷土資料は閲覧禁止だったり、見れないものも多いです。これはコピーですけど太宰府の観光協会は歴史が古い方なんです。これは昭和 29 年とかの観光案内でまさしく名前が「観光の太宰府」なんです。こういうのを見てたら、例えばこの間天開稲荷の方に行ったら吊り橋があったということと言われる方がいて、たしかにこの本には載っているんですね、今は無いものでも昔を思い出してこのようにぱっと言われる方がいましたけど、そういったことのきっかけになるような情報を少しでも載せて、次の未来に繋がる観光都市太宰府になっていくように、せっかく今天満宮様も次の 2125 年にむけて改修も進められておりますので、このように意見を出していただくことが観光動機というか、観光に来るきっかけになることがございますので、貴重なご意見ありがとうございます。

○委員

さっき歴史をパンフレットに載せてほしいと言いましたが、その歴史とかを動画にまとめたり音声ガイドにし、それを QR コードとしてパンフレットに載せたりしてもらってもっと見やすくなるかなと思いました。

○事務局

市の観光情報もありますし、あと文化財課の方でもアーカイブを作ってますので、おっしゃる通り QR コードをつけてそれを見てもらうっていうのは非常にいい取り組みかなと思います。参考にさせていただきます。

○竹川会長

では続きまして、後半部分第 3 章から第 5 章にかけての素案について事務局より説明をお願いします。

○事務局

(資料説明)

○竹川会長

ただいまの事務局よりの説明につきましてどこからでも結構です。ご意見、ご質問ありましたら委員の皆様からお願いいたします。

○委員

三つございまして、一つ目は 23 ページの KPI なんですけども、計測方法が聞き取りアンケートとなっておりますが、これは母数を相当とれるものにちゃんとなっているのかと疑問です。今時ではないのではないかと感じます。

○事務局

昨年、携帯電話会社と連携いたしまして、そのポイント会員さんを対象にアンケートを実施した結果 2000 サンプルとれています。なのでこのアンケートで同じ設問を用意いたしまして、そこで増減の推移をとっていくというような形で考えております。

○委員

わかりました。二つ目が、これは基本計画そのものの話ではないんですけども、私は一昨日昨日と、香川県の金刀比羅宮に行っておりまして富士山とか京都の話を聞いていたんですけども、一年前にも実は呼ばれて行って、今回行ったら門前がすごく良くなっていました。それは高付加価値化補助金をとられて、色々な改装をしたりだとか、うどん屋さんの二階がゲストハウスに変わっていたりだとか、そういう状況が明らかに見えて良かったんです。

今回でいうとオーバーツーリズムの総合支援策を国が打ち出していて、この計画を作ってからエントリーしても遅いと思うので、国がエントリーをするタイミングで誰もがオーバーツーリズムの場所だと思っている太宰府市としてどういう国の支援を要望していくのかというのを、もう動かれていますのであれば聞きたいなというところです。

○事務局

こちらにつきましては我々もかなり重視しておりまして、今年の 10 月に閣議決定されたオーバーツーリズムのパッケージの中に「先進の全国 20 自治体の中から選んで実証実験を行う」というようなものがあがっております。

実はつい最近なんですけども、11 月 16 日に市長が観光庁に向けてオーバーツーリズム対策の実証実験に太宰府もぜひと要望を出させていただきました。もしそれが採択されたら、太宰府市は割と観光地としてはエリアがそんなに広いところではなくて、またオーバーツーリズムの課題であるゴミとかポイ捨て、あとインバウンド対策、あと渋滞、これが狭いエリアで一つのパッケージになっているので実証実験としてはいい場所じゃないかなということもございまして、そういったところも含めて只今検討中でございます。

○委員

回遊性やモビリティも結構ほかの地域もとりにいっているという風に聞いているの

で、そこはしっかりとってもらいたいなという風に思います。

最後に DMO の設立にも関係するんですけど、これは第一回の時に似たようなことを私言ったんですが、今 DMO 自体が独自で行政の支援に頼らないという、皆しんどくなっているという状況の中、新たに生み出していくという中で、もちろん何をやるかというのは一番重要なんですけども、やっぱり独自の財源の検討というのはしっかりとってもらいたいなと思います。

例えば駐車場の目的税みたいなのがこっちはあるんですけども、その使い方がどうで、例えばそれを財源にしていくとか、太宰府館という非常にいいところに在りながら収益化できてないという意見もあるので、そういったものをどう使っていくのかとか、より具体的に DMO の設立とセットで DMO の食い扶持っていうのをしっかりゲットしてもらいたいなというように思います。以上です。

○竹川会長

他に皆様からご意見、ご質問、ご確認でも結構です。

○委員

話の腰を折るようで申し訳ないんですけども、太宰府が有名になるのはすごく嬉しいのですが、車がすごく多いので家に帰りたいただけなのにすごく渋滞していてなかなか帰れないとかそういった問題もありまして、あんまりバスの本数が増えると困るなどか、そうすると電車をいかに利用していただくかというところが重要になるかと思えます。

23 ページの(3)の「観光に対する市民意識」というところなんですけれども、私の周りではどちらかという観光に対してマイナスの意見が割と多いのですけれど、調査方法はどのようにされたのか疑問です。

○事務局

ありがとうございます。こちらのまちづくり市民意識調査につきましては、毎年市の地域と年齢層ごとに無作為に対象者を抽出する郵送のアンケート形式になっております。小学校単位で校区が 7 校区ありますけれども、その 7 エリアごとでのこういう満足不満足という割合まで統計をとっている調査で、これは毎年行っている調査でございます。

まず観光満足度そのものは、この 23 ページにありますように 80.4%ということで、非常に高い割合になっております。ただオーバーツーリズムの分というところは、観光というよりはやはり交通状況の改善という点では非常に重要に考えられている市民の方は多いです。じゃあこれは円滑に流れているかっていうところで、円滑に流れていると、政策として進捗が進んでいるか進んでいないかというところでは、進んでいるという率は他と比べて進んでないという率が高いというところは数字とかでも出ておりま

す。

先ほど仰っていただいたように、やはりバスとか公共交通機関をできるだけ市といたしましても、天満宮様がいて駐車場の関係とかもあるんですけど、公共交通機関を利用していただくというのは非常に重要な視点であると考えております。我々も施策の中にも入れておりますけども、交通 MaaS の実証実験に参加しながら、公共交通機関を使った周遊にどうやってもっていくかというところも、来年進めたいと考えております。道路が生活道路と観光道路が一つになっているので、これ以上たくさんのバスを増やすとか何を増やすということは、生活道路の混雑にも繋がっていきますので既存のものでどう渋滞を緩和できるか関係課とも協議しながら進めていきたいと考えております。

○竹川会長

貴重なご意見ありがとうございました。これは観光だけでなく市内の渋滞や交通の問題は、大きなインフラの整備も含めまして色んな問題につながると思いますので、貴重なご意見だったと思います。観光の面のオーバーツーリズム対策も含めてそういったものも検討していくということで、ご理解いただければと思います。

○委員

今丁度お二人からオーバーツーリズムのお話が出たので、このタイミングで……。オーバーツーリズムの対策としても周遊促進がすごく大切だと思っていて、さっき一個目で話したところでもそういう観点で申し上げてたんですけど、一か所にギュッとそこばかり来るからオーバーツーリズムになってしまうと。でもどこかに回していくのか、福岡市の会議でも福岡市に留めずに広く回ってもらうべきだとよく言うんですけど、同じように天満宮エリアだけではなくて他のところに回ってもらうのが大事なのかなと思います。そういう意味でも 26 ページのオーバーツーリズムへの対応とか、先ほど言われたような観光庁と話す時にも、その辺の視点、その対策として周遊促進をしていくというところはぜひ盛り込んでいただきたいなというのがひとつあります。

それとその周遊促進のためにも観光案内所の活用というのも少し書いていただくといいのかなと思います。今情報収集のほとんどがスマホになっていく中で、提供する情報や案内所のあるべき姿も変わってきているんだろうなと感じています。通常の道案内とかそういったものは観光 DX の中で、今キャッシュレスとかそういうことを書いてますけれども、こここそまさに案内所を DX 化して通常の単純なやつはそういったものでやります。そしてそのよりプラスの方に人的リソースを割けるようにしたほうがいいのかなという風に感じたところがございます。

案内所関連でもうひとつ。戦略 4 のところで近隣自治体との連携で福岡市とか他市町村の案内所との連携も入れた方がいいといったところです。

最後にもう一つだけ、これは質問です。25 ページの基本戦略 2 の②のアクティブシ

ニアを活用したインバウンド向け観光というのがよく分からなかったのでご説明ください。

○事務局

ありがとうございます。こちらにつきましては、今年の7月から TRIPLUS という会社と日本経済大学さんと産官学連携ということで進めておりまして、アクティブシニアは大体 50～60 代の方々を対象としているんですけど、インバウンドの観光客の方が最近日本観光にあたって歴史とか自然とかそういったところを周遊するというところだけではなくて、日本の生活体験を色々やっていきたいというようなニーズが非常に高くなってきているところもありまして、地域にいらっしゃるそういう 50～60 代の、事業者さんに限らず自分たちで体験を提供できるような、これはコンテンツを作るのと、コンテンツと TRIPLUS さんというところがそこをマッチングするためのシステムがありまして、そっちのインバウンドの方のオーダーとこっちが提供できるものをマッチングさせて価格設定を高くしてそれを繋いでいって商品に繋げていくというような体験のスキームになっております。

○委員

今回の計画を見ての感想なんですけれども、この計画を目指す姿というのを書かれてそれを達成するために基本戦略は四つ掲げられて、その具体的な政策というのもそれぞれぶら下がっておりますね。それでその計画を進行管理していく上で 27 ページ以降に年次計画という形で 1～5 年目にどういった事をするんだという事が書かれてあると思うんです。事務局でこの辺は十分に検討されて提案されているのはわかっているんですけども、この年次計画をざっと見ると基礎調査に 2 年かけたり現状把握に 2 年かけたり、そんなに期間が必要なのかなというのが中身にはあるんじゃないかなというのが少し気になりまして、出来るものはもう 1 年目から実施していくくらいの勢いで書けるものがあれば、1 年目からこの計画を具体的に進めていって将来目指すべき姿に向かっていくんだっていう計画になるといいのかなというのを少し感じました。

○竹川会長

貴重なご意見ありがとうございました。今日まだご発言されていない委員の方おられますか。

○委員

少しふれさせていただきします。まず計画を拝見させていただきましたけれども、観光庁が出されているような盛り沢山な内容で素晴らしいなと思いました。一方で多分課題が、先ほどの 19 ページに計画に盛り込む要素と書いていらっしゃるんですけども、「数」

から「質」へというのと、消費の拡大というのが大きく関わってくるのかなと思っております。そんな中で、この「数」から「質」、観光消費を上げるっていうところで取り組みをされると思うんですけども、できればもう少し具体的なターゲット像みたいなものもふれていただければいいのかなと思います。例えば先ほど話に出ました福岡市さんなんかは明確に欧米豪と言い切って、ターゲット設定されていたりとかしますので、その辺をもっとふれていただければいいのかなと思います。

もう一つが、先ほどの持続可能な観光のところで国のモデル地域には申請という話をお伺いしましたけれども、せっかく日本に冠たる太宰府市ですので、是非国際認証をとっていただけて進めていただけたらと思いますのでよろしく願いいたします。以上です。

○事務局

ありがとうございます。一応国外のターゲットにつきましては、本論で入れております通り、欧米豪、あとタイというところを既存の国にプラスしてやっていくというところでもありますので、こちらの計画の要素のところにもそれを入れていこうかなと思います。

また国際認証の件なんですけれども、こちらがなかなか見ているとDMOとかそういったところを、DMOに限らずなんですけど、やはり自立的な組織を作ってそこを増していくというのが目標になるので、将来的にはそういった形で進めていくというところは理想かなと思いますけれども、少しでも近づけるようにそういった形で進めさせていただこうと思います。

○竹川会長

他に委員の皆様から、まだご発言されてない方おられましたら是非お願いしたいと思いますけれども、何かございませんでしょうか。

○委員

大宰府展示館というとてもすばらしい展示物があって、令和元年はあちらの方も注目されてたくさんの方が行かれてましたが、コロナが間に入ってしまって、どうしてもまた天満宮の方にしか人が来ないというか、こちらの大宰府政庁跡の方にまだそんなに人が戻ってないのかなという感じがします。本当に大宰府展示館には素晴らしい展示物がある一方で、あちらも結構建物とか老朽化していたりするので、もっと見せ方を整えたら更に魅力が高まるのではないかなという風に思います。太宰府館もそうですけど、大宰府展示館ももっと改修とかそういった部分が必要になってくるのかなという風に思ってます。

○竹川会長

ご意見ありがとうございます。太宰府展示館を含めて、政庁エリアに色んな例えばお土産物であったり皆さんが交流したり、全体的に太宰府の文化を盛り上げるような拠点づくりは、今4館連携とか色々進められておられますけど、周遊を進める上でもそういう整備も将来的に必要だというご意見だったと思います。

○委員

くだらない質問かもしれませんが、太宰府市などの太宰府と大宰府政庁跡の大宰府の感じの表記の違いに疑問を持っています。私は太宰府の人間ではないのでそういった疑問を素朴に思って・・・太宰府の人からしたら当たり前の話なのかもしれないですけども、そういうのも載せてもらえたら面白いかなと思いました。

○事務局

この太いと大きいというのは、実際のところは色んな書物が昔からありますが、太いが入ってたり大きいが入ったり混在してます。ただ、現在の使い方といたしましては、当時の政庁、あとその周辺の史跡とか、そういった歴史的な観点の大宰府については「大」とし、現在の太宰府につきましては「太」で表記しております。そういった形で今は「令和の都だざいふ」というのをしているのですが、そのキャッチコピーの太宰府はひらがなにしています。なぜかという、先ほど委員さんがおっしゃられました様に二つ使い分けて、点ありの「太宰府」と点なしの「大宰府」があり、それで我々としたしましては過去の大宰府と今の太宰府、どちらもその流れも含めて推していきたいというのがありますので、ひらがなで出しているという、そういう形もございます。こちらは便宜上の扱いという形で考えていただければと思います。

○竹川会長

貴重なご指摘でした。実は太宰府市が出されている観光パンフレットには、大と太の違いというのがちゃんと書いてあったりします。私も歴史の教員なので歴史上教科書とかには点をつけない方の大宰府、いわゆる大宰府政庁の施設の大、今はわかりませんが昔はそれで採点したらバツになっていました。それで、現代の地名とかには点をつける太いの太宰府、そして今市長は未来の向けてのひらがなのだざいふ、そして最近では外国の方に聞くと、外国の方の表記はローマ字いわゆる英語表記というか、そちらの方がいいとうちのオックスフォード大学のそういう研究をしているオーストラリア人の学生さんに教えてもらったんですけど。外国の方は案内表示板が道路標示とか出てますが、あれはローマ字で打ってあると思うんですね。我々日本人はひらがなの方が外国の方にはわかりやすいと思ってても意外と通じなくて、漢字文化圏だったり、喋る時はひらがなの発音なんですけど、そういう時はローマ字表記がいいと、インバウンドに向けた表

示だったり、太宰府はそういう国際交流都市の歴史が長いので、そういう歩みを語る上でもそういった説明も、先ほどの太宰府の観光の歴史の分とかで、そういう歴史と文化があって太宰府の表記も国際基準じゃないんですけども、変遷をしてきているという説明があっても面白いストーリーかなと思います。

これは日本遺産を色々広めていく上でも課題になってることであって、私の方から申しますと近隣自治体というのは旧筑紫郡、ご存じない方が多いんですけど筑紫地域で春日とか大野城とか、那珂川、筑紫野、太宰府と5つの。でもそれで今経済帯とかですね、例えば筑紫青年会議所で動いてたり、そういう歴史認識とか地域認識があるところをうまく活用できてない部分が結構ございます。そういったものは福岡市も、あと県域を越えて佐賀県基山町とか、日本遺産の場合は広域連携が求められてますので、私は「ちくし」とか「つくし」とかいう言葉が好きなんですけど、九州を代表するような地域なので今日皆さんから出たご意見を九州全体の観光を考えていく上でも、とても重要なご指摘かと思えます。福岡県だけでなくそういった広域な連携、それから姉妹都市も結構ありますので、この次の素案がきちんと形になっていく上では皆様のご意見を反映していきたいと思ってます。

私の方から一つだけ、後半まだできてない部分が多いんですけど、やはりこの計画前と追加も策定させていただいて、コロナがあったせいで、人のつながりが非常に途切れているというか、委員も変わったりしていく中で、観光って人の繋がりがだったり、経験も含めて大事なところがあります。役所の方は人事異動があっしょうがない部分があるんですけども、この過去の流れやこの計画を担保していく、繋がりを作っていく組織、DMOなのかそういう協議体をまた別に作るのかは別として、今第5章になってます計画の推進体制とは別で、今4の方に入っている観光戦略推進にかかるとか、やはり持続可能な観光というのが今回一つの計画の柱になってますので、こういう章を一回間に挟んで、かつ担い手の問題や組織作りの問題を展開されていくほうが、先ほど別の意見でDXを図って人を割かなくてもいい部分はあるのかもしれない。でも私はやはり人の繋がりとかが従来の協会さんとか商工会さんとか天満宮の参道の方たちもおられますし、そういったとこのいわゆる温故知新じゃないですけども、不易流行という言葉がありますけども、従来の太宰府の伝統と新しい姿を融合していく令和の心の精神が太宰府には大事だと思いますので、そういった人の体制とか推進体制の部分をもうちよっつと割いてもいいのかなと、未来に向けての計画になりますので思っております。人材、観光に実際に携わっている団体さん、組織の話とかも含めてですね。事務局いかがでしょうか。

○事務局

確かに持続可能な観光ということは、今回の計画は特に重要な視点であると思えます。そのためには、人材の育成であったり推進体制、あと先ほどのオーバーツーリズム

であったり、地域の保全といったそういう要素もやはり必要になってくるかと思います。こういうイメージ図とかでもありますように、市民の方からも享受できるようなところがわかる表現はおっしゃる通り必要かなとは思っています。ありがとうございます。

○竹川会長

では、市民代表の意見も出ましたし、観光の担い手だったり観光に対して支えてくださる市民層、そういった方たちを含めたイメージ図と推進体制ということで追加をいただければと思っております。

では皆さん会議のお時間が来ましたので、本日の会議の議題、意見交換はこれでよろしいでしょうか。全体を通じて大江副会長からお願いします。

○大江副会長

たくさんのご意見をありがとうございます。観光戦略を推進する体制作りがないと、結局誰がやるか、どこがやるかということがはっきりしなくて、なかなか計画が進まないという問題があります。一方で推進する組織の財源をどうするかという問題もあります。実は新宮町が新しい人が入ってくる率がものすごく高い町で、今観光地としても少し伸びてきているところなんです。ここがふるさと納税を財源としているんですね。九州観光機構は以前申し上げましたけど、民間のお金と県のお金をあわせています。財源確保については色々なやり方があるのでどれが一番太宰府にふさわしいものであるか、ずっと続けられるかどうかというのは、早急に調査した上で体制作りを進めるべきだと思います。関係する文化連盟であるとか観光協会であるとか商工会議所であるとか、様々な観光の組織をどなたかがまとめていくような、そういうことが即検討されないと、5年かかってもなかなか難しいのではないかと思います。大変難しい問題であると思うのですが、そうしないとさきほど竹川会長もおっしゃられてましたけど、人は変わるんですよ。役所の場合はそういう事が当たり前ですから、5年前の委員会で今4人ですよ、そして官の方は皆変わられている、しょうがないんですよ。なので意思を繋げていくような方が中に何人かいらっしやらないと難しいだろうかと、思いがないと人は動かないんですよ。是非そういう体制作りをまず一番にやっていただく事が大事なかなという風に個人的には思ってます。是非挑んでいただきたいなと思います。

○竹川会長

ありがとうございました。最後に次回の委員会までに各委員の皆様から、今日結構資料が多くございましたので、読んでいただいてお気づきの点とかメール等で結構ですので、最終的な計画案になりますようにまたご意見をいただければと思っております

今日色んなご意見が出たと思いますので、次回の委員会の時もそういう未来に繋がるようなご意見を頂戴出来たら、次の未来に千年を超える太宰府の歴史や文化を我々が作

るんだという思いを持っていただければ幸いです。また来年も元気に皆様とお会いして、貴重な意見を交わしたいと思います。本日はどうもありがとうございました。

最後に事務局にお返しします。

○事務局

(閉会挨拶)